

## 令和2年度第3回米沢市総合計画審議会 会議録

1 日 時 令和2年7月17日（金）10:00～11:30

2 場 所 置賜総合文化センター 203研修室

3 出席委員

尾形健明会長、赤井直美委員、鹿俣貴裕委員、小関洋子委員、柴田正孝委員、白石祥和委員、須藤昌志委員、須藤正彦委員、清野雅好委員、高澤由美委員、長谷川健委員、吉澤彰浩委員、渡邊修一委員、以上13名

（相田哲郎委員、大和田浩子委員、佐藤和子委員、松田智博委員は欠席）

事務局

副市長、総務部長、企画調整部長、市民環境部長、健康福祉部長、産業部長、上下水道部長、市病事務局長、教育管理部長、教育指導部長、会計管理者、議会事務局長

（建設部長欠席により都市整備課長代理出席）

総合政策課 課長、課長補佐、企画調整主査、担当

4 会議録

（1）開会

（2）副市長あいさつ（要旨）

副市長 新型コロナウイルス感染対策は、私達がやるべきことをきちんとやるしかないのだと思う。本日は、郷土をつくる人材が育つ、教育と文化のまちづくりがメインなので、どうぞ忌憚のないご意見をお願いしたい。

（3）会長あいさつ（要旨）

会長 皆さんおはようございます。コロナウイルスが、この梅雨空のごとく我々の心を支配している。一人ひとりがガイドラインをしっかりと守って、予防に努めるほか今のところ方法がない。本日で各論が終わるのではないかと思うので、忌憚のないご意見をどうぞよろしくをお願いしたい。

（4）議事

事務局 規程に従い、これからの審議につきまして、尾形会長に議長をお願いしたい。

会長 それでは、議事に入る。本日の会議については、正午前までには終了したいと考えているため、委員の皆様の協力をお願いする。はじめに（1）後期基本計画（案）6章 前回審議会で出された質問・意見への回答について、事務局から説明願う。

事務局 資料1「質問・意見回答書」に基づき説明

資料は、前回審議会が出された質問・意見に対する回答と、後日書面で提出された意見への回答となる。

会長 ここまでの説明について、質問はあるか。

（委員からの質問・意見なし）

なければ、次に進む。（2）後期基本計画（案）2章について、事務局から説明願う。

事務局 資料2「第2章 郷土をつくる人材が育つ、教育と文化のまちづくり」に基づ

き説明

会 長  
委 員

ここまでの説明について、質問や意見はあるか。

施策 2-1 2 番目の○で、義務教育課程は、国との関係もあるが、教育委員会の範疇にもなっている。少子化の中で、「米沢市立学校適正規模・適正配置等基本計画」が策定されていると思うが、児童・生徒の実態が数合わせに感じる。現在小中学校は、学区制で決まっています学校を選べない。将来的に中学校は、3校に編成されるようだ。そこで一つ疑問なのだが、今後スクールバスで通うようになれば、学区制はどうなるのか。通いたい中学校を選んでもいいとも思う。市としてどう考えているか教えて欲しい。それから、さんさんプランがあるが、実態に合っているのか疑問だ。例えば、生徒が100人だと25人ずつのクラスになるが、99人だと33人ずつになる。25人と33人では、先生方の負担が全然違ってしまふ。これは、県の方針だと思うが、疑問に思っている点だ。

二つ目は、2 ページ 2-1-1 自ら学び考え行動できる力を育む学校教育の充実についてだが、学校で教えることが増えており、先生の負担が大きくなってきていると思う。原因の一つは、本来家庭で教育すべき最低限のしつけ等までも学校で行っていることだ。本来学校で行うべき基礎学力を身に付けさせるところまでできずに終わっているように思う。小学校は、高学年の勉強が特に重要だと思う。国語や算数の習熟具合で、クラス編成ができないか。他の自治体では、実際行っているところもあると聞く。先生の負担もかなり減ると思う。

最後に、12 ページ 2-4 スポーツで楽しく元気な人づくりの推進についてだが、最近eスポーツが出てきて、まもなく鹿児島でeスポーツの国体も開催されるようだ。ボーダーレスな時代の中で、eスポーツがどこに分類されるのか、市としての考えを教えて欲しい。

教育指導部長

1 点目の、適正規模・適正配置での児童数については、数合わせをしているのではない。子ども達の学力向上、人間性を充実させるためには、一定の規模のクラスで、多くの子ども達と関わりを持たせながら、育てていきたいと考え計画を進めているので、ご理解いただきたい。それから、中学校が3校になることに伴い、学区選択制にできないかについては、今現在、新しくできる3校について、それぞれの学校独自の様々な特徴・特色を活かせるように市全体としても考えているところだ。既存の学校では、多少の特色はあるものの、大きく何かに特化した学校づくりは行っていないため、選択制は採用していない。

また、小学校も、将来的には8校にする計画で進めている。学校の規模だけにこだわらず、特色を持った学校づくりについても、視野に入れているので、今後検討していきたい。また、県が打ち出しているさんさんプランだが、国が定める標準法では、小学1年生以外は、40人学級となっている。その為、例えば81人だと、27人の3クラスになるが、80人だと、40人の2クラスとなる。どこで人数を区切っても、1名の違いで1学級の人数の違いが出るので、基本の単位をより少ない33人にして取り組んでいる。

2 点目の、家庭教育と学校教育の役割分担だが、総合計画や策定中の教育振興基本計画においても、家庭教育と学校教育、あるいは、地域教育の役割をはっきり

りさせて取り組んでいきたい。また、学校の教職員の負担軽減のため、習熟度別にクラスを編成してはどうかという意見をいただいたが、小中学校に限らず、一部科目を、習熟度によりクラス分けしている学校もある。学校ごとに、子ども達の状況や、教職員の状況を考慮し、メリットがある場合には、習熟度別の学習も進めている。

教育管理部長 3点目の、eスポーツだが、近年世界的に盛んになっているのは認識している。施策の2-4については、従来の直接身体を動かすスポーツを想定し記載しているので、eスポーツはここには含まれていない。どこに含まれるかについては検討させていただきたい。

委員 1点目については、やはり学区制がいいと思った。2点目については、習熟度にクラスを分ければ、先生も教えやすいと思う。それについては、できない理由として、差別になるのではという不安や、平等意識が根底にあるように思う。家庭内からそういった意見は出てないのか。

教育指導部長 現状では、習熟度別で取り組んでいる学校は、一時期よりも少ない。教員からの指示ではなく、子ども達にレベルを考え選ばせる方法を取っていたので、家庭内からそういった声はなかった。同じレベルの子ども達と一緒に勉強させればスムーズに進むという意見だが、様々な子ども達と関わり合っ、分からないところは教え合う、あるいは競い合うことも、重要だと思う。社会全体が同じレベルで生活しているわけではないので、自分と他の子と比較しながら、補い合ったり、競い合ったりする学習形態も、メリットが大きいのではないかと。

委員 2ページの「がってしない」子どもだが、がってしないという言葉が好きだ。基本的なことであるが、大事で奥深い。子ども達だけでなく、大人にも当てはまるいい言葉だ。そこで、内容が子ども達にも分かるように、イラストにするなど、目を引くようなパンフレットのようなものがあれば、意識がより高くなるのではないかと。米沢弁でもあるので、市外や他県に対してのPRにもなると思う。

教育指導部長 ありがたい意見だ。がってしない子どもの育成については、我々も一生懸命取り組んでいるところだ。イラストにする、冊子のようなものにするという意見については、総合計画の中に入れるのは難しいが、今後どのように反映できるか検討したい。

委員 1点目は、2ページで、いのちを育む大切さ等の文章が消されているが、4ページの■市民・地域・事業者等に期待する役割■では、いのちの大切さを理解し、優しさや思いやりをもって人と接しましょうと書いてある。消した理由を教えてください。

2点目は、不登校やいじめ等の未然防止に努めとあるが、私には、中学生と小学生の子どもがいて、以前から感じていることだが、学校と生徒・児童だけでなく、保護者に対してのフォローもお願いしたい。相談しやすい雰囲気や時間等の環境を作って欲しい。コロナ禍の中で、新しい生活様式となり、子ども達も不安に感じていると思う。先程学校統合の話が出たが、実際子どもが、中学校の統合を経験した。新しい学校になり、新しい環境になるとするのは、親も大変不安だったが、子どもにとっては大きなストレスになると感じた。現在、学校にはカウ

ンセラーがいるが、これから統合が進む中で、しっかりと精神面をフォローする環境を整えてもらいたい。最後に、3 ページの 2-1-3 の図書館や博物館との連携で、新聞を活用してはどうか。

教育指導部長

2 点目と 3 点目の意見については、参考にしたい。1 点目の質問については、いのちを育む大切さの教育を、やらないわけでも軽んじているわけでもない。2 つ目の○に書かれてある「より良く生きるための基盤となる道徳性を養い、豊かな人間形成と人間関係づくりの教育を充実させます。」において、大きく捉えて書いている。これを受けて、教育振興基本計画を策定しており、そこで具体的な施策等について、計画し取り組んでいきたい。

委員

10 ページ 2-3-1 3 つ目の○の、「芸術創作活動拠点」と、4 つ目の○の、「文化芸術活動推進」に関連して提案したい。米沢の芸術創作活動拠点は、ナセ BA や伝国の杜があると思うが、展示が主である。もう一つの観点として、例えば、芸術村のような創作活動を行うところがあれば良いと思う。芸工大で学ぶ学生は、都会や田舎にこだわらず、自然を愛する人が多いと感じる。学生生活の中で創作するためには、ある程度のスペースが必要ではないか。先程、小中学校統廃合の話があったが、廃校となる学校の利用も考えてみてはどうか。オープンイノベーション的な感覚で、異業種が集まれば、また違った世界ができるのではないかと、活動の拠点としても良いのではないかと。興味を持って来てもらえれば、移住・定住の促進にも繋がり、米沢市民にも大きな影響を与えてくれるのではないかと思う。

教育管理部長

芸術創作活動拠点については、旧南原中学校をリノベーションし、芸術の杜と称し、今年度から整備を行っている。来年度には、具体的に活動する予定だ。昨日も企画運営委員会を開き、関係者から意見を貰ったところだが、委員の意見同様に、若者を呼び込む施策も必要ではないかという意見が出た。具体的な方針は未定だが、いただいた意見を視野に入れながら、検討していきたい。

委員

1 点目は、1 ページで、2 つ目の○に、「課題を抱えた児童生徒が増加している」とあるが、原因は何か教えて欲しい。原因が分からなければ、対策のしようがないと思う。例えば、家庭の貧困や、学校の教職員の人員不足や質の問題、学習指導要領の細かさなど様々あると思うが教えて欲しい。先程、子ども達の習熟レベルの話が出たが、何より一番下のレベルの子ども達をそのままにしておかないことが重要だ。例えば、小学校の算数でつまずいてしまえば、社会に出てその子どもは随分と苦労することになってしまう。中学校で、小学校の算数をやりなおしても構わないので、一番下のレベルの子ども達を引き上げることを考えて欲しい。

2 点目は、スポーツ施設で、私は多目的運動場をテニスで使うのだが、利用するクラブも利用者もほぼ変わらない。同じクラブが週 3 回使っているような状況はどうなのか。利用者も 60 代が多く、若者が参加しにくいように見受けられるので、システムの構築を行政側でできないか。

教育指導部長

1 点目の、課題を抱えた児童生徒の増加原因については、様々な要因があると思う。社会全体の仕組みも随分変わってきている。その中で貧困等の問題もあると思う。あるいは、家庭教育や学校教育のあり方、地域のあり方、子どもとの接し方

にも課題があるのではないか。またいわゆる発達障害と言われる子ども達の数も、以前より増えており、どうしても落ち着いて授業を受けられない子どももいる。こういった様々な要因が重なっていると捉えている。

教育管理部長

2点目のスポーツ活動について、現状を説明したい。教育委員会では、スポーツ協会を通じて、スポーツ教室を開催している。硬式テニス、ソフトテニス、弓道、ニュースポーツなどを毎年企画して実施している。運営については、各競技団体等をお願いをしている。例えば、その中のソフトテニスでは、スポーツ教室で学んだ方が、もっとやりたいとなれば、自分達で、サークルを作ってもらい続けてもらっている。または、それぞれ連盟に加入し、市内の大会や県大会などに出場することもできる。このようにスポーツ教室を次につなげていく取組も実施している。ただ、委員から指摘があったように、団体が高齢化・固定化している現状もあり、若者が新しく参加できる環境づくりは必要だと考えているので、課題にも書いたが、今後体制づくりに取り組んでいきたい。

委員

1点目について、先程貧困の話があったが、近年、社会全体が弱者に厳しくなったのも原因の一つだと思う。そこは国の政治問題で中々介入できないが、教育のところだけは、何としても踏ん張ってやってもらいたい。一番下のレベルの子どものケアをしないと、社会に出た時に苦勞すると思うので、是非お願いしたい。

委員

スポーツについては、競技スポーツであれば、民間が主導となり、スポーツ少年団等に参加して取り組むことができると思う。ただ、スポーツ少年団に参加できない家庭の子ども達や、非正規等で働く若者等が気軽にスポーツを通じて、人と人とのつながりを作ったり、悩み事を相談できたりする場所があればいいと思う。競技スポーツではなく、楽しく取り組むぐらいの気軽なスポーツの場を通じて、職場では相談できないけれども、様々なことを相談できる場があればいいと思う。先程、話にあったeスポーツについては、ネット依存・ゲーム依存等の心配もあるが、やり方次第だと思うので、まずは大人がスポーツとして認めて、制限等を外してやることが重要でないか。そうすれば、eスポーツを通じてつながりを作ったり、指導をしていくこともできるのではないか。

不登校という言葉については、適切なのか。不適応という言葉もどうか。なかには、学生時代には学校になじめなかったが、起業等をして活躍している人もいる。不適応が必ずしも悪ということではない。学校内で学校の先生が抱え込まないようにする必要がある。

教育管理部長

スポーツを通じた居場所づくり、仲間づくりは大切だ。広報・HP等での周知等はしているが、新規の人はなかなか増えない状況だ。先程説明したスポーツ教室についても、友達や会社の人に誘われて参加することが多いようだ。今後、一人でも参加できるような雰囲気づくりについては、検討していく。eスポーツについては、先程話したとおり、現在の想定には入っていなかったもので、今後、どのような取り扱いをするか検討する。

教育指導部長

不登校という言葉については、その人の能力だとは捉えていない。あくまで、現在の状況(学校に来られない状況にある)と捉えている。教職員も、そのように捉えている。不登校については、個々の状況に合わせて対応しているが、なかなか

か解決できない場合もある。原因が絞れないこともあり、改善は難しいが、子どもの家庭と連携をとって根気強く取り組んでいく。

委員 教育に関して、視点として追加して欲しいことがある。教職員の方達が、働きやすい環境づくりが大切でないか。そうすれば、米沢市に良い先生が集まると思う。学園都市というキャッチフレーズにも相応しいのではないか。

また、大学と連携した学園都市の推進においては、セカンドホームや、市主催の大学生向け案内ツアーは続けて欲しい。学生の中には、米沢で働きたくても働く場所が無いという声もよく聞く。地元企業の情報や、地元での働き方がイメージできるように、ライフスタイルの紹介等を行うことも必要ではないか。

教育指導部長 教職員の職場環境についてだが、総合計画の施策の中には、子ども達のため、ひいては教職員の負担軽減につながるものもあるが、教職員の負担軽減という視点に基づいて記述はしていないので、少し検討してみたい。環境づくりには、ハード・ソフト両面での検討が必要だ。

企画調整部長 大学生が地元に残ることは重要な課題だが、なかなか進んでいない。地元企業の求めている人材と、学生が希望する仕事とのマッチングをしていく必要はあると思う。また学生が定着するためには、町の魅力そのものも高めていく必要がある。

会長 山形大学工学部では、県内就職率は1割程度でないか。山形県立産業技術短期大学校では、ほとんどが県内就職している。山形大学工学部は、山形出身者が少ないので、増やしていくことも重要だ。

e スポーツについては、山形新聞にもどこかの高校が全国大会に向けて頑張っている記事が掲載されていた。高校生にとっては、当たり前のこととなっているようだ。

委員 4ページの目指す目標値について、新しく掲載された1から3の指標の現況数値は、どのように調査されているのか。

教育指導部長 毎年行われている、全国学力学習状況調査という、中学3年生及び小学校6年生が回答するアンケートの数値を用いている。

委員 数値変更の理由は何か。

教育指導部長 置賜産農作物の使用率については、気候に左右されてしまうため、まとまって給食に出せる数が育たないということもあり、目標値にするのは適当でない判断した。新しい目標値については、学校教育で求める学力・道徳心のベースになるものだと考え、採用した。

委員 目指す目標値が、子どもの主観に基づいた目標値で客観性に欠けるのではないか。また、自己肯定感・キャリア感、思いやりに加えて、読書に関する目標値だけというのは足りないのではないか。例えば、スポーツに関する数値もあっていいのではないか。

委員 4ページで、市民、地域、事業者に期待する役割に、いのちの大切さを理解し、優しさや思いやりをもって人と接しましょうと記載されている。我々は、障がい者に関わる機会が多いが、米沢の中高生は障がい者に対して気軽に声かけし、お手伝い等をできることが多い。学校教育が活かされているのではないか。今後は、

子どもだけでなく、大人も一緒に学ぶことが必要だと思う。そして、総合計画の中に、大人も人を思いやる気持ちを記載することが必要だと思う。というのも、ある障がい者の方が、市役所ではない公的機関で、「障がい者なのに字が上手だね。」と言われたという話を聞いた。また、知的障がい者の方に、丁寧に説明せず、半ば強制的にはんこを押印させたようなケースもあったと聞く。子どもだけでなく、大人も思いやりの心を持つということを、計画に入れてもらえればと思う。

教育管理部長

目指す姿に、大人についても優しい気持ちを持つという視点を追加することが必要だ。

委員

スポーツ協会とスポーツ課がうまく連携できてない。役割分担がきちんとできるようにして欲しい。一般財団法人としての業務内容と、市の補助事業における連携についてもう一度見直さなければならない。

また、適正規模についてであるが、関小学校や関根小学校の統廃合に際して、地域の人々の学校に対する思いは強かったように思う。子ども達も、少なからず影響を受けた。学校が統廃合される中で、学校とコミュニティセンターの連携、コミュニティセンター同士が連携することが大切でないか。南原中学校と二中が統合した際にも、PTAで情報交換していたが、今後、コミュニティセンターの役割は一層重要になってくるのではないか。

教育管理部長

スポーツ協会の体制については検討が必要ではあるが、市が主導するということは難しい。協会と協議をしながら検討していきたい。また、小学校が地域からなくなることにより、地域活動の中核として、今後、コミュニティセンターが大きな役割を持つことは市も認識しており、各地区のコミュニティセンターを更新するなど、機能強化を図っている。コミュニティセンター同士のつながりだが、現在、ブロック制を採用しており、市内を3つのブロックに分け、それぞれのコミュニティセンターが連携を進め、共同でスタンプラリー事業なども行っており、今後も、コミュニティセンター同士の連携を強めながら、地域づくりに取り組んでいきたい。

事務局

次回審議会の日程は、9月下旬か10月上旬を予定していたが、パブコメ等の予定も考え、前倒しを検討している。

事務局

以上で、審議회를終了する。